

# なはけいざい

## M A G A Z I N E

vol.1

2017年12月

那覇の経済を知る 那覇市公式広報紙【なはけいざいMAGAZINE】



ヒト・モノ・コトが集い  
活気あふれるまち なは

- CONTENTS**
- 2面 01 ワールドブランドが那覇市に進出!  
～ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄～
  - 3面 02 人との出会いもアイデアも地元から  
～プーランジェリー パティスリー いまいパン～
  - 3面 データで見るNAHA city
  - 4面 那覇市の取り組み

## 1 沖縄のメインエンジン那覇

沖縄県の経済成長率が、日本全体よりも上回っていることをご存知でしょうか。「平成26年度県民経済計算」(平成29年2月)によると、平成26年度の日本の経済成長率が1.5%であったのに対して、沖縄県は3.5%となりました(いずれも名目)。入域観光客数の増加を背景に、宿泊施設やレンタカー利用によるサービス業の増加や消費税増税前の駆け込み需要による住宅建築の増加、それに伴って住宅賃貸業などの不動産業が堅調に推移したことなどが理由にあげられます。

その沖縄県経済を中心となって支えているのが、那覇市です。那覇市は、沖縄県民の4分の1近い22.6%(32万3,064人/平成29年9月)の人口を擁し、市経済の規模を示す市内総生産額は全体の3割にあたる32.0%(1兆2,181億円/平成26年 沖縄県統計課市町村内総生産)にのぼっています。建設業とサービス業が好調であったため、市町村内総生産の対前年増加率は4.3%となり、沖縄県全体の経済成長率にも大きく寄与しています。まさに県経済のメインエンジンといっても過言ではありません。

## 2 順調に伸びる那覇市の観光客数

好調な沖縄経済を支えているのが、沖縄のリーディング産業である観光業です。観光入域客数も年々増加し、平成27年度は約793万人、対前年比で約76万人、率にして10.7%の増加となり、3年連続で過去最高を更新しました。

那覇市を訪れる観光客も増加し、平成24年度に約575万人であった入込観光客数は、平成28年度には約752万人となりました。特に外国客の増加が大きく寄与し、約142万人(前年度比144.2%)となっています。外国客が急増した要因には、海外航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増、円安効果による台湾、韓国、中国、香港からの旅行需要の増加などが考えられます。

現在の増加数が続けば、平成33年(2021年)には、入込観光客数は1,000万人を超える可能性もみえてきました。世界遺産の首里城跡をはじめ、ショッピングが楽しめる国際通りや大型免税店、伝統文化を体感できる博物館や美術館といった観光スポットが充実している那覇市は、国際的にも注目を集める観光リゾート地として成長しつつあります。

## 3 存在感を放つ二つの産業

沖縄の産業の特徴は、サービス業を中心とした第3次産業の割合が高いことです。那覇市でも市内就労者のうち約93%が第3次産業に就いています。観光立県であるため観光業従事者が多く、宿泊業と飲食業が大半を占めます。観光客一人あたりの市内消費額は約73,000円で、4分の1は宿泊費、5分の1は飲食費とされます。

那覇市は、沖縄観光の玄関口として多くの観光客を迎えます。最近では那覇クルーズターミナルを利用する外国客が急増しており、来訪目的の多様化に対して受入環境の充実が求められています。このような中、快適な癒しを提供する宿泊業やバラエティ豊かな食を提供する飲食業は、市の経済を支える大きな柱のひとつです。

今回は、外国客への多言語対応といったサービス向上を目指す宿泊業と、食を通して市の魅力を伝える飲食業。これらの産業の取り組みを取材し、世界トップクラスのホテルが那覇市に進出した理由や展望、地域の観光資源を盛り上げるための商品開発を行う飲食店の想いなどを紹介します。



### 発刊にあたって

那覇市長 城間 幹子

アジアと日本を結ぶ交流拠点として位置する本市は、世界水準にふれあい、つながり、ひろがることで、新たな可能性の創出を秘めています。このような本市の強みを活かした取組みとして「ヒト・モノ・コトが集い活気あふれるまち なは」を掲げ、国内外から優れたヒトやモノが集い、そこから新たなモノやコトを生み出し、世界へ羽ばたくことで、躍動感がみなぎる万国津梁のまちを目指してまいります。その足掛かりとし、発展する地域産業や各ビジネス分野の情報を広く市民の皆様へ発信する「なはけいざいMAGAZINE」を発刊致します。本市の経済施策や、雇用状況などの課題に対する認識を深め、これらの改善に向けた取組みを、市民の皆様と共に進めて参りたいと思います。商都・那覇の更なる発展に向けて、んなし まじゅん ちばてい いかなやーたい。



### 創刊に寄せて

一般社団法人 沖縄県経営者協会 会長 安里 昌利

海外観光客の大幅な増加や新規就航路線の拡充などを背景に、本県の経済状況は好調に推移しています。一方、企業においては、長時間労働の是正や柔軟な働き方の拡大など、人材確保の観点から「働き方改革」への取組みが真剣に行われています。当協会も那覇市をはじめ経団連や国、県と連携・協力の下、生産性を高めつつ、魅力ある働きやすい環境づくりに向け積極的に事業を展開しています。そのような中、那覇市の産業や経済、雇用に関し、市民との情報共有や課題の解決を目的に本紙が創刊されることは、誠に時宜を得た取組みであり、同紙を通じ、更にビジネスチャンスが広がり、地域経済の振興、産業の発展に繋がることを心より祈念申し上げます。

## 01 ワールドブランドが那覇に進出

ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄

沖縄の魅力を世界に発信するシティリゾート  
地域文化とハイクラスのサービスが融合

## 世界的一流ホテルが那覇に進出

那覇市の桜坂エリアに2015年7月、「ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄」が誕生しました。世界有数のブランドホテル・ハイアットの沖縄初開業ホテル。運営するケン・コーポレーショングループは、多角的・長期的な経営ビジョンを軸としたホテル事業を手がけています。宿泊客に地域の文化や自然、人の魅力に触れてもらうことで、“世界に通用するホスピタリティ”を築いてきました。

「ハイアットは数ある国際ブランドの中でも切れ味するどいラグジュアリーホテルチェーンです。ハイアットがある地域は世界的なディステーション（旅行目的地）として認められます。そういう意味では、那覇は名実ともに、世界クラスのディステーションに認められたのだらうと思います」と話すのは、総支配人の佐藤健人さん。那覇で開業した理由についてもこう語ります。「沖縄観光の中心地は那覇です。市内は空港から近く、旅の拠点になる場所です。ここでシティリゾートとしてNo.1のホテルを開業し、富裕層をターゲットとした新たなマーケットの開拓を考えています」。

また桜坂という立地については「沖縄観光のメインスポットは国際通りです。その近くにある桜坂エリアは、歴史や文化、食、人の温かみなどを備え、開業地として魅力を感じました」と率直な印象を話してく

れました。

那覇で好調なホテル運営を続けるケン・コーポレーショングループは現在、国内外でホテル事業を展開しています。「全部で31軒あり、国内22、海外9、うちグアム島が5軒です。グアム島にあるホテルのうち、ケン・コーポレーショングループのホテルは全体の3割近くを所有するトップシェアです。ひとつの地域で複数のホテルを所有しながら、地域と密着したホテル運営を展開して、マーケットを広げていくのが特徴です」。

## 高待遇で積極的に地元の人を採用

常にサービスの質の向上を求められるラグジュアリーホテルとして、開業にあたっては地域をよく知る地元の人材を積極的に採用したと話す佐藤さん。また、給与を県内の平均額より10%ほどベースアップ。低賃金といわれるホテル業界では異例の高待遇を用意しました。

「ホテルマンを憧れの職業にしたいんです。沖縄では3Kのようだとされていますが、実は欧米では地位が高い。オープン時の記者会見で、沖縄ホテル業界の平均の10~20%は給料を上げると宣言し、実践しました。また、パートタイムで働くハウスキーパーも他より時給が高い。現場ではスタッフとITを連携させ、効率良く作業を行っています」

## ポテンシャルの高い沖縄の人材

「沖縄の人たちはとても優秀。そしてホスピタリティ業界には向いていますね。印象に残っている出来事に、新卒者の面接があります。学生たちに、将来はどうなりたいの?と聞いたところ『沖縄の役に立ちたい、沖縄観光に貢献したい』という回答が多くて驚きました。自分たちの住む地域や好きなことを相手に共感してもらいたいというのは、ホスピタリティの本質的な部分です。沖縄の人たちは、その思いを持っています。そういった意味でも、沖縄の人材は、ホテル業界に合った資質を持っているといえます」。

業務を通して、その想いを多くの宿泊客に伝えてほしいと話す佐藤さん。では、佐藤さんが現在感じている課題とは。「インバウンドのお客が増えていますので、やはり外国語対応は必須です。研修制度を設けており、自らが学習するきっかけとなればよいと思っています」。

ハイアット リージェンシー 那覇 沖縄  
総支配人 佐藤 健人 さん

## 仕事を通して人を育てる環境づくり

2020年に完成する那覇空港第2滑走路が起爆剤となり、沖縄観光が黄金期に入ると推測している佐藤さん。沖縄を訪れる観光客は、2020年代中頃には年間1500万人にまで増えると予想。そのため、今しっかりと準備をするのが大切だと言います。

「今後も宿泊施設の新規開業が見込まれ、沖縄のホテル業界により多くの人材が必要になってくることは確実です。年齢や性別・役職などを超えて、志ある人がやりたいことに挑戦できる環境を作ることで、より良い人材が育つと考えています。ハイアットでは新人でも成果を出せば、白羽の矢が立つことがあります。また活躍の場を那覇や県内のホテルだけとせず、視野を大きく広げて、県外や海外での勤務にチャレンジすることができることも知ってもらいたい。そして、どこでも活躍できる人材に育ててほしいと願っています。沖縄の人たちは「沖縄愛」が強いので、さまざまな場所でキャリアを積み、たくさんの経験をして、自分の中の引き出しを増やして、将来、沖縄に戻ってきてもいいのではと思っています」

## ホスピタリティ

もてなすという意味。国内外から訪れる人たちに沖縄をもっと好きになってもらえるよう、市民ひとり一人が意識したい言葉です。

## インバウンド

外国人が日本を訪れる旅行のこと。近年、那覇市でもインバウンドが増加しています。多くの外国人に対応できるように、「国際化」が望まれます。

## HOTEL INFO

那覇の中心地にある「都会のリゾート」。国際ブランドならではの洗練されたおもてなしと伝統ある琉球文化の融合を体感できます。“コネクト(Connect)”をコンセプトに、人と人、地域とホテル、世界と沖縄のつながりを大切にするホテルを目指しています。総客室数は294室、うちスイートルームは14室。ロビーや客室、レストランなど、館内のいたるところに沖縄の伝統工芸品が飾られています。



琉球ガラスが飾られた館内は、洗練された雰囲気

佐藤 健人 さんの  
わたしとなは

## 沖縄観光の中心・那覇で、地域と共に!

国際通りは海外からの観光客が多く行き交い、名実共に「国際」通りへ。歴史、文化、食事と全ての要素がコネクトし世界中の人々を魅了しています。進化し続ける那覇の街と共に、私達のホテルも成長して参ります。

広報担当  
仲尾 千枝 さん

「桜坂エリアは幼い頃から親しみのある場所。ここにホテルを作る理由を知りたかった」と話す仲尾さん。地元の人が頑張っている会社が、地域と一緒に盛上げていく、ということが大切だと考えます。「沖縄出身というのは、沖縄の観光業界ではアドバンテージ。私だからできる、地域の魅力を伝えたい」と自身の現在の挑戦を語ります。そして職場環境については「いい仕事をしたらそれに見合うポジションが与えられる。スピード感や求められている質の高さに緊張感はありますが、これから伸びる業界なので楽しい」と笑顔を見せてくれました。

フロント担当  
安里 舞 さん

琉球大学観光産業科学部出身の安里舞さん。卒業後は、3年間銀行に勤務しましたが、観光業への夢が捨てきれずに2016年4月に入社。「ワールドブランドのラグジュアリーホテルである、ハイアットしか考えていなかった」と入社理由を語ります。大学では「従業員満足度と顧客満足度の関連性」をテーマに研究していたそうで、「私自身がハッピーでないといい表情ができないし、お客様にも伝わります。従業員満足度と顧客満足度は比例しますから。ホスピタリティ業界においてはもちろん大切だし、他の業界でも重要なこと」と自身の思いを語ってくれました。

## access

ハイアット リージェンシー  
那覇 沖縄

〒900-0013  
那覇市牧志3-6-20  
TEL:098-866-8888  
http://premierhotel-group.com/  
okinawahyatt/



# 02 人との出会いもアイデアも地元から

ブルーランジェリー パティスリー いまいパン

地域の人とのつながりで売上げがアップ  
店を任せられるまでにスタッフも成長

## 地域とのつながりを深めることで 次第に売上が伸びていった

那覇市真地に2012年にオープンした「ブルーランジェリー パティスリー いまいパン」。お店を営むのはパン職人の今井陽介さんと、奥さまでパティシエのあいこさんです。お二人とも東京や海外で修行を積んだ、実力派のご夫婦。結婚を機に、あいこさんの地元・沖縄へ移り住みました。

「店を構えようと物件を探しましたが、なかなか条件に合うものが見つからず、そんな状況を見かねた義父が営んでいた金物店を閉め、その場所を引き継ぐ事にしました」と話す陽介さん。真地は繁華街ではないものの、やっていけそうだと思っていたといいます。ところが、開店して3年間は売上げが伸びず、売れ残った商品を施設に寄付する生活が続きました。

「それでも、やっぱり僕はパン作りが好きだった。



店内には芳ばしい香りが広がりバラエティ豊かな商品がならぶ

自治会に入って地道に地域とのつながりを深めたり、TV取材を受けることで知名度をあげるなどして、徐々に売上げを伸ばしてきました」と、陽介さんは開業当時の苦労を振り返ります。

## アイデアは地元にあった観光資源から

二人にとって大きな転機となったのが、第38回那覇市長賞優秀賞を受賞した「識名園うまんべい（浪漫餅）」の開発。どうしてもパンの売上げが落ち込んでしまう夏場の経営を改善したいと、あいこさんが思いついたのは、店から徒歩5分の場所にある世界遺産「識名園」を盛り上げるためのご当地商品でした。商品化には繁多川の老舗「丸吉塩せんべい屋」のほか、久高島在住の画家・山崎紀和さんもパッケージで協力。市長賞の受賞は話題を呼び、「平成29年 全国菓子大博覧会 名誉総裁賞」の受賞をも果たしました。

## 全国菓子大博覧会受賞で認知度と売上がアップ スタッフの育成にも取り組む

現在、従業員はパートも含めて13人。「受賞のおかげで売上げが安定し、従業員を増やしたほか、待遇も改善しました。近くオープンする予定のお店を任せられるほどに若手スタッフも育っています」と、キッチンを温かく見守る陽介さん。現場第一主義の陽介さんは「本当はパンを焼いていたい」という気持



ブルーランジェリー パティスリー いまいパン  
今井 陽介さん・今井 あいこさん

ちが強いそうですが、新しい店舗を展開して従業員が働きやすくなりやすいと感じる職場を作り、若い人でもチャンスが広がる環境にしたいといいます。

琉球国王をモチーフに翌年販売したティータイムクッキーも賞を受賞。「商品が注目を浴びたことで、人との新たなつながりも広がってきました。今後は沖縄の素材で琉球世界遺産シリーズを完成させ、沖縄全体を盛り上げたい」と、意気込みを話してくれました。

## スタッフ 長浜 唯さん

いまいパンに入って3年目の長浜さん。子どもの頃からパンが大好きで、パン職人を志す。いまいパンへの就職を決めたのは、その種類の豊富さと見た目の華やかさ、そして味の確かさ。「自分が開発したパンをお客様が喜んでくれる姿が何よりのご褒美」と語ります。日頃の努力が実って、23歳の若さで年内にオープン予定の2号店の主任に抜擢され、今後はパン作りだけでなく店舗スタッフの管理などの新しい仕事にも携わります。「2号店の開店で色々なことが学び、いつかは自分のお店を持ちたい」と将来の夢を語ります。



■ 識名園うまんべい  
年間7万人の観光客が訪れる世界遺産「識名園」には、これといったおみやげ品がないことに気づいたあいこさん。せっかく作るならと地元の食材



識名園うまんべい  
浪漫餅  
1,200円(税込)

那覇市長賞 優秀賞 受賞  
全国菓子大博覧会 名誉総裁賞 受賞

を使うことにこだわり、材料には繁多川の丸吉塩せんべい屋の塩せんべいを使っています。そして、もう一つのこだわりは二人が出会ったフランスの塩も使用していること。またパッケージは、識名園を天空から眺めた絵を、画家・山崎紀和さんに描いてもらいました。商品が形になったのはすべて、陽介さん、あいこさんが作っていった人とのつながりがあったからです。



琉球国王の  
ティータイムクッキー  
1,944円(税込)

那覇市長賞 最優秀賞 受賞  
全国菓子大博覧会 金菓賞 受賞

## ■ 琉球国王のティータイムクッキー

琉球国王をモチーフに発売したクッキーも那覇市長賞を連続受賞。商品は、原材料に県産黒糖やさんぴん茶を使用し、黒糖サブレとさんぴん

茶クッキーに展開しました。琉球はかつてさまざまな国と貿易し、繁栄を謳歌していました。パッケージには、フランスのスイーツを食べた琉球国王が、未体験のおいしさにビックリしている様子が表現されているそうです。



今井 陽介さんの  
わたしとなは

## 那覇はパンを通して、自分を表現できる場所

県外出身者の私にとって、妻の地元である那覇は「第2のふるさと」。思い入れのある特別な場所で、大好きなパン作りを通して自分の技術で地域の人々を笑顔にし、愛されるお店作りを進めていきたいです。

## access

## ブルーランジェリー パティスリー いまいパン

〒902-0072  
那覇市真地12-4  
TEL:098-836-3008  
https://imainpain.com/



## データで見るNAHAcity

DATA.

01

## 那覇市の事業所・従業者

那覇市の総事業所数は17,995。総従業者数は156,511人で、うち個人事業者が28,692人(18.3%)、法人が127,183人(81.3%)。産業別従業者数の第三次産業構成比が約93%(沖縄県全体では85.9%)で、中核市48市中でもトップで突出して高いため、産業構造のバランスを考慮すると、農水産業や加工業などの成長と発展も望まれます。

事業所数ランキング			従業者数ランキング				
順位	事業所	%	順位	従業者	%		
1	卸売業・小売業	4,568	25.4	1	卸売業・小売業	31,324	20.0
2	宿泊業・飲食サービス業	3,687	20.5	2	宿泊業・飲食サービス業	23,428	15.0
3	不動産業・物品賃貸業	2,013	11.2	3	医療・福祉	19,653	12.6
4	生活関連サービス業・娯楽業	1,571	8.7	4	サービス業(※)	19,051	12.2
5	医療・福祉	1,243	6.9	5	運輸業	8,951	5.7

出典/H26年経済センサス基礎調査

※他に分類されないもの

DATA.

02

## 市内宿泊施設数と収容人数

県内で一番、宿泊施設数が多い市町村はどこだと思いますか? 正解は宮古島市(247軒)! 第2位が石垣市(220軒)で、ここ那覇市は第3位(219軒)です。施設数では3位ですが、収容人数ではダントツ1位(32,033人)! 大規模なホテルが多いため、施設毎の収容人数が多いのです。那覇市民約30万人に対して、宿泊施設の収容人数は約3万人。単純計算で、年間約1,095万人泊(3万人×365泊)となりますが、那覇市では平成36年度までに、年間1,300万人泊に増やすことを目標としています! 市内を歩けば、かなりの頻度で観光客とすれ違うこともあります。ぜひ、おもてなしの心で観光客の皆様をお迎えしたいですね。

出典/平成28年沖縄県「宿泊施設実態調査」

宿泊施設  
収容人数  
ランキング

1 那覇市  
32,033人

2 恩納村  
15,272人

3 石垣市  
10,459人

## 那覇市の取り組み

那覇市では、市内事業所の大多数を占める中小企業の振興を重視し、平成22年に「那覇市中小企業振興基本条例」を定め、関係者が協働しながら地域経済の発展や経済振興に取り組んできました。

最近では、沖縄県内の景況が好調で、雇用状況も改善しつつあります。那覇市は、この流れを後押ししようと、市政の最重要施策に経済振興を位置づけ、その取り組みとして、中小企業支援のさらなる強化に努めています。

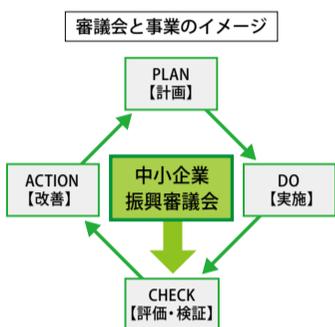
また効果的な中小企業の支援を行うため、当事者である中小企業団体や、経済関連団体の関係者、学識経験者などの専門家から構成される「那覇市中小企業振興審議会」を設置し、貴重な意見・提言を受け、支援策を進めています。

今回は、昨年度の同審議会の答申を受けて進められる、さまざまな中小企業支援策の中から、今年度、新たに取り組む事業の一部、紹介します。

### H28 那覇市中小企業振興審議会の答申について (概要)

#### 優先的に実施が必要な中小企業振興施策

- ① 中小企業の実態把握のための「市内中小企業経営実態調査」の実施  
那覇市中小企業の実態の調査・分析を行い、那覇市独自の施策立案に繋げていただきたい。
- ② 創業や事業継続のための支援施策の充実・拡大  
経営のプロフェッショナルや実務者による支援強化策や、民間運営による創業相談拠点設置 (例: スタートアップカフェ) 等に取り組んでいただきたい。
- ③ 優秀な人材確保につながる本市雇用施策の推進  
人材育成・確保につながる取り組みを早期に実施していただきたい。
- ④ 産業振興の拠点となる施設・インフラ整備、見直しの検討  
那覇市IT創造館等の管理運営にあたり、企業の状況に応じた取り組みを実施していただきたい。
- ⑤ 外国人観光客の増加に対する支援強化  
多言語対応やICTを活用した情報発信、特産品開発など、那覇市独自の事業者支援策を実施していただきたい。
- ⑥ 独自性の強い中小企業振興策の実施に向けての予算規模の拡大



### 1 中小企業の現状を把握し、的確な支援策立案を目指す

それぞれの企業の実態に合わせた支援策を考えるためには、現状をきちんと把握することが重要です。そのために那覇市では、中小企業に対する調査を行っています。

これまででは、総務省と経済産業省が共同で行う調査「経済センサス」の結果を参考にしていました。しかし、調査結果が公表されるまでに時間がかかること、那覇市が必要とする調査項目が入っていないことなどから、今年度、新たに「市内中小企業経営実態調査事業」を実施することにしました。内容は、市内の中小企業に対しての那覇市独自のアンケート調査とヒアリング調査です。これにより、市内中小企業の実態をより的確にかつタイムリーに把握することができるようになります。調査結果は今後、さまざまな経済産業政策に活用され、数字やデータに基づいた、より効果的な施策の展開が期待できます。

### 2 観光資源の魅力を活かした商品の創出

沖縄県のリーディング産業の一つである観光。那覇市でも観光振興は、取り組むべき重要な分野です。市内には、琉球王国時代の歴史を感じさせる世界遺産の首里城跡などの文化施設をはじめ、牧志公設市場といった地域に根ざした観光スポット、そして那覇ハーリーや那覇大綱挽まつり、琉球王朝まつり首里など、市民や県民、観光客も楽しめるイベントやまつりがあります。

このように那覇市には、世界に誇る多くの素晴らしい観光資源がありますが、これらを活用した那覇市を代表する定番の「商品(モノ)」や「サービス」は?と聞かれて、すぐに思い浮かぶものはいくつあるでしょうか。例えば、東京には東京スカイツリーが、シンガポールには、国のマスコットの存在であるマーライオンがあり、それらをモチーフとした土産物やサービスなどがあります。

「新商品開発事業」では、認知度の高い観光資源のほか、さいおんスクエアと壺屋やちむん通り入口に設置しているうふシーサー、若狭の龍柱、市の魚のマグロ、市の蝶のオオゴマダラなどを新たなモチーフとして活用し、市内の事業者による那覇市をPRできる独自の商品やサービスの開発を支援しています。

既存の資源に新たな価値を加えながら、観光都市「那覇」としての魅力発信と、さらなる認知度の向上へとつなげる取組をすすめています。



### 3 「起業力」を支援する「インキュベーション」

「インキュベーション」という言葉をご存じですか? インキュベーションとは、新しいビジネスの成長を促進する取り組みのことで、設立して間もない企業に国や自治体等が経営ノウハウやオフィススペース、人材などを提供し、将来的に優良な企業を育てることをいいます。そしてそれらのサポートを実践する施設をインキュベーション施設といい、県内にも20以上設置されています。

世界で最も起業しやすい国の一つと言われるシンガポールでは、政府自らが創業支援用のオフィスを建設し、新企業を誘致・支援することで経済活性化を目指す政策を積極的に展開しています。

那覇市でも、那覇市IT創造館、なは産業支援センター(愛称:メカル ヨンゴ)の2つのインキュベーション施設を銘苅エリアに設置しています。同施設には観光関連産業、情報通信産業、国際物流産業など、那覇市の戦略的成長産業分野の企業28社が入居し、約170名の従業員が施設内で活発に企業活動を行っています。また施設ではオフィススペースの提供に加えて、各分野の専門家が適切な支援や助言を実施するハンズオン支援も行い、企業の経営力を向上させる取り組みなども実施しています。

今年8月には、メカル ヨンゴが所在する、なは市民協働プラザ地下1階に「なはし創業支援相談窓口」、「なはし就職なんでも相談センター」が本庁より移転し、年末には、各関連機関の連携を目指した、民間のカフェが1階にオープンする予定です。

今後、周辺関連施設も一体となり、銘苅エリアが那覇市のスタートアップの地としてますます活気づくことで、新たなビジネスの創出や、関連産業の集積から生まれるビジネスの高度化など、那覇の産業発展をリードする場として期待されます。



IT創造館 入居企業	(株)沖縄映像編集ラボ、(株)沖縄ソフトウェアセンター、沖縄テクノス(株)、(同)ZUMI、とまれる沖縄(株)、(株)ファランクス、(株)フォーラムエイト沖縄、プラボーワークス(株)沖縄支部、マクロシード(株)、ミキシステム(株)、(株)レイメイコンピュータ、(株)ワンスペース
メカル ヨンゴ 入居企業	(株)アイ・エム・ジェイ、(株)エイブリッジ、(株)オムニバスワンダーラボ、グスクード社会保険労務士事務所(株)グスクード、(株)JELLホールディングス、(株)糺の森、日本モルデン(株)、PMアシスト(株)、(株)ブルー・オーシャン沖縄、ブルームーンパートナーズ(株)、(株)Payke、マギー(株)、(株)MEDIAFLAG沖縄、(株)メリットトレーディング、ユーマーク(株)、(株)ライフスタイルテクノロジー ※五十音順

### 4 魅力的なイベントが大きな経済効果を生み出す

那覇市では、年間を通して多彩な観光関連イベントを開催しています。りゅうぎん総合研究所が発表している調査レポートによると、那覇市が誘致している読売巨人軍の春季キャンプによる平成29年の経済効果は22億3,000万円となりました。またNAHAマラソンの平成28年の経済波及効果は、約19億7,800万円となっています。

平成29年に9回目の開催となった沖縄国際映画祭は、那覇市における一大エンターテインメントコンテンツで、祭りの目玉である国際通りレッドカーペットには、9万1,000人が訪れました。来場者による経済効果に加え、那覇市のメディア露出増加による効果も高く、その媒体広告効果は国内だけでも46億円を越えると言われています(主催者発表)。

また毎年5月3日~5日に開催される那覇ハーリーは、県内離島や県外からの観光客による来場が期待できる県内有数の大型イベントとなっており、平成29年は17万4,000人が来場しました。また那覇大綱挽まつりは、10月の体育の日を含む土・日・月の3日間にわたって開催され、奥武山公園に併設された市民フェスティバル会場と合わせると平成29年は75万5,000人が訪れました。

琉球王朝まつり首里は、毎年11月3日の文化の日に古都首里で行われる祭りで、平成29年の来場者数は4万8,300人と那覇の三大祭りの中では規模が一番小さいものの、市が実施した県外でのアンケート調査では三大祭りの中で認知度が一番高く、沖縄の歴史・文化に関心を持つ観光客を取り込むことで、規模の拡大を見込むことが期待できます。

那覇市における平成28年度の観光収入は約3,187億円。今後も、観光関連イベントを用いた宣伝・誘客活動及び経済振興施策を行いながら、国内観光客のみならず、急増するインバウンド需要も着実に取り込み、更なる経済成長をもたらす市民所得の向上へとつなげるのが重要と考えています。



### 読者アンケート

アンケートにご回答頂いた方の中から抽選で、粗品をプレゼントいたします。  
※締切は2017年12月25日(月)です。(当日消印有効)  
※当選の発表は賞品の発送をもって、代えさせていただきます。発送は2018年3月末頃の予定です。  
はがき、FAX、Eメールのいずれかに、①住所、②氏名、③年齢、④電話番号、⑤職業を明記の上、以下の質問項目番号と、回答番号を記入してお送りください。

宛先  
ブルームーンパートナーズ株式会社  
『なはけいざいMAGAZINE』創刊号アンケート係  
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅 2-3-1 メカルヨング 404  
FAX: 098-993-7607 E-mail: nahakeizai@bluemoon-p.com  
※ブルームーンパートナーズ株式会社は那覇市より委託を受け、なはけいざいMAGAZINEを制作しています。  
※応募された方の個人情報は、当選者への賞品の発送以外には使用いたしません。

- Q1 今号で一番印象に残った記事はどれですか? 以下から番号をお選びください。  
1. Naha Frontier #1 (ハイアットリージェンシー)  
2. Naha Frontier #2 (いまいパン)  
3. 那覇市の取り組み 4. データで見る Naha City
- Q2 今号で興味が湧かなかった記事はどれですか? 以下から番号をお選びください。  
1. Naha Frontier #1 (ハイアットリージェンシー)  
2. Naha Frontier #2 (いまいパン)  
3. 那覇市の取り組み 4. データで見る Naha City
- Q3 『なはけいざいMAGAZINE』の全体的な満足度をお聞かせください。  
1. とても満足 2. やや満足 3. ふつう 4. やや不満 5. 不満
- Q4 今号の「那覇市の取り組み」で紹介した那覇市の取り組みについて知っていましたか?  
1. 知っていた 2. 知らなかった
- Q5 今号の「那覇市の取り組み」で紹介した那覇市の取り組みについて興味が湧きましたか?  
1. 興味が湧いた 2. 興味が湧かなかった
- Q6 『なはけいざいMAGAZINE』に対するご意見・ご感想がありましたらお聞かせください(自由記入)。

なはけいざい  
MAGAZINE  
vol.1

2017年12月1日発行

《発行》  
那覇市経済観光部商工農水課  
〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1  
TEL: 098-951-3212

《制作》  
ブルームーンパートナーズ  
株式会社

《印刷》  
丸正印刷株式会社